

第17期 第5回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 令和3年5月19日（水）午後3時～午後5時
- 開催場所 小平市役所 5階 505会議室
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、小川委員、市川委員、白井委員、八田委員、菊地委員、塩島委員、中村委員、米山委員、和田委員（順不同）
- 傍聴人 1人
- 議題 第17期小平市緑化推進委員会の検討課題について
- 配付資料 （1）第17期第5回小平市緑化推進委員会次第
（2）第17期第5回資料 意見・提案集約

会議の要旨

事務局より、配付資料とは別に「鎌倉公園整備基本計画」を委員へ配付し、概要を説明した。説明後以下のとおり質疑があった。

委員長

鎌倉公園整備基本計画について、第1期と第2期はどのように分かれるのか。

事務局

基本計画のp.26をご確認いただきたい。第1期の整備区間は、優先整備区域を含めた赤枠の部分となり、第2期は青枠の部分。2期に分けた理由としては、鎌倉公園が広大な公園であることから、用地取得や整備に多くの費用と時間がかかることが予想されるため。

委員長

他に質問等がなければ、次にうつる。

委員

津田塾大学横の玉川上水緑道にナラ枯れ対策の案内があった。前回の会議でも小平市内での取組が必要であり、時期的にも早めに対応した方がいいというような話があったので、参考までに資料を持参した。内容は記載のとおりのため、割愛する。

委員

私からは、インクルーシブ公園について、皆さんに知っていただきたく提案する。インクルーシブ公園とは、様々なニーズや多様性にも配慮しながら車椅子のお子さんでも一緒に遊べるような公園のことをいう。神奈川県藤沢市では既に導入されており、小平でもこのような公園を整備する動きを進めていけたらと思う。

先程説明のあった鎌倉公園についても、遊戯エリアが設置されるのであれば車椅子の子供たちでも遊べるようなものを設置していただきたい。また、トイレについても、安全面を考慮しながら、インクルーシブの視点を持って配置してほしい。

委員長

ナラ枯れの案内について、「トラップを設置しています」との文言があるが、どこにトラップがあるのか

委員

粘着シートが幹に巻いてある状態。樹木から昨年侵入したカシナガが出てくるのを防ぐ効果がある。

委員長

樹木に入ってる幼虫に対して被害の拡大を防ぐためのものであるなら、トラップというより予防措置ではないか。また、どういう目的で該当の樹木に実施したのか。

委員

昨年マスアタックされた樹木のうち枯れていないものを対象にしている。

委員

シートを幹の1.5m程度の位置まで巻くようだが、気を付けないと樹木自身が枯れてしまう。以前、樹液に集まる蜂の対策として同じように幹にシートを巻いたら2年で樹木が枯れてしまった。気孔の循環が悪くなる関係だと思うが、木を枯らさないための対策によって木が枯れてしまっはよくないため、注意してほしい。

委員

おそらく夏くらいには外す予定。あくまでも試験的に行っている。

委員長

穿入生存木に対しては、一定の効果があるだろう。玉川上水の場合、色々な管理者がいて、それぞれの管理者の考え方がある。本来ならば連携して対策を講じるべきではあるが、試験

的にやることは悪いことではない。ナラ枯れについては、分かってないことが多いため、様々な方法を試すのは良いだろう。他になにかあるか。

それでは、前回会議で了承を得て4月15日に環境部長へ提出した緊急提言について報告する。本来ならば市長へ提出すべきことではあるが、市長選の関係から日程調整が難しかったため、このような運びとなった。

緊急提言について委員からの提案と私の回答は、以下の通りである

〔提案〕

現状で判明している穿入生存木に粘着シートの巻き付ける方法を実施する。

〔回答〕

粘着シート巻きでの発出抑制は、一本一本には効果がある。しかし、例えば上水新町の特別緑地保全地区のような雑木林で尚且つ玉川上水と接しているようなところでは、様々な行政機関が連携して行わなければ効果が乏しい。時間的にも難しいため、緊急提言からは外させてもらった。なお、周辺機関との管理の連携や虫が出てくることへの抑制については、先程の資料も含めて本答申の中では一つの方法として盛り込むべきと考えている。

〔提案〕

特別緑地保全地区において、TWTトラップを数箇所設置して、令和3年度は今後の対策を踏まえて状況を確認する必要がある。また、根本的な解決策として雑木林の更新を行うことは、次世代コナラ等雑木林育成の好機と考える。

〔回答〕

TWTトラップについては、緊急提言の通り。

萌芽更新による雑木林の管理は理想とするところである。しかし、小平の雑木林は、大径化して樹木が大きくなっている。これは森林総研のデータのなかにもあるが、例えば直径40センチ以上だと萌芽は期待できない。今後は、枯死等した場合の萌芽更新ではなく恒久的なコナラ育成が問題となる。緑化推進委員会のなかで議論され、本答申のなかにも盛り込まなければならない課題と考える。

〔提案〕

「市内雑木林が存亡の危機に見舞われている」との内容を、緊急に市報にて市民に周知すべき。また、同様の趣旨で「緑の危機説明会」を開催し、公民館運動として推進することを提案する。

〔回答〕

市民の理解を深める事は、とても重要なことで同感する。また、市民と共に対策に努めることも、大きな力となる。これらの課題はとても重要で、ナラ枯れは5年から10年続くものと考えて委員会でも本答申に向けて十分な協議が必要と思われるため、委員会への提案とさせていただく。

以上の通り、緊急提言については、時間も限られていたため、最低限の提案のみに絞らせ

ていただいた。これらの意見は、配布資料の「意見・提案集約」のなかにも含めている。
提出した緊急提言について、市からのアクションがあれば教えてほしい。

事務局

提言については、新市長へも報告させていただいた。市としても、市管理区域の樹林について、TWTトラップによる対策を実施するため準備を進めている。

委員長

どこの樹林にトラップを設置するのか。

事務局

具体的には、昨年度被害のあった6つの樹林を対象にして実施するが、すべての樹林に満遍なく設置するのは難しいため、主に上水新町一丁目特別緑地保全地区を中心に試行的に行う。他の樹林についても、個数は少ないが順次設置する。また、今年度は、8月までに調査も行いながら進めていく予定である。

委員長

市民の方の協力をいただいて実施することが理想だが、現状では難しいだろう。いずれにせよ小平のナラ枯れの状況は、ある程度は市民に知らせなければならないことと思う。

次に、配布資料「第17期小平市緑化推進委員会第5回資料 意見・提案集約」をご覧ください。この資料は、第1回から第4回の緑化推進委員会のなかで出された意見及び緊急提言に対する意見をまとめたものである。

委員長より、「第17期小平市緑化推進委員会第5回資料 意見・提案集約」の読み上げ説明があった。

ここには出ていないが、ナラ枯れの抜本的対策についても、本提言の中に盛り込む必要があるだろう。

意見・提案集約について、記載漏れや訂正、又は意見等はあるか。

それでは、私から一点、「都心から一番近いプチ田舎」という標語があるが、観光まちづくり協会が出しているパンフレットには一言も出ていない。この標語は市の中でこういった扱いなのか、これを緑化推進委員会でこれを推進して良いものなのかという懸念がある。

事務局

「都心から一番近いプチ田舎」という標語は、産業振興課で所管している「小平市観光まちづくり振興プラン」という計画の標語である。現在は、「プチ田舎」という言葉も商標登録されており、小平市の中では浸透している。観光まちづくり振興プランの取組みの一環と

して、観光まちづくり協会をつくったので、同会が作成しているパンフレットについても、用語そのものは登場しないものの、「都心から一番近いプチ田舎」の趣旨は込められているはずである。

委員

事務局に質問。ナラ枯れ対策のロードマップは、具体的にはどのようなものがあるのか。

事務局

ロードマップと言えるものはないが、緊急提言の内容にもあったTWTトラップを現在作成しており、5月末から6月初めにかけて設置しようと考えている。設置後1週間で虫が多くトラップにかかっている樹木がマスアタックされているものとして、該当の樹木にさらにトラップを設置していく予定である。

その後は1週間に1回程度の頻度でトラップに入っている虫の数等を確認する作業を8月頃まで行い、今年度の状況を見る。来年度以降については、今年度の経過や人員体制、予算の兼ね合いのなかで決めたいと考えている。

委員

マンパワーについては、役所の人手で足りており、特に市民への協力を呼びかける予定はないということか。

事務局

この取組に関わらず、広く市民に呼びかけることについては、このような状況下では難しいため、現時点では考えていない。

委員長

8月から9月に結果は出るため、緑化推進委員会でロードマップを作成して提言と共に提出することもできるだろう。来年度以降の市民参加のあり方も視野に入れて考えたい。

雑木林は、用水路と並んで小平の宝であり、歴史的にも価値のあるものである。

ナラ枯れの対応も含め、現在出されている提案を見ると、今期は、歴史的遺産・郷土遺産を見つめなおし、守り、育てることによる緑化推進といった視点が中心になるかと思う。個人的な考えだが、第17期では具体的で合理性のある提言をしたい。

他に委員から意見はあるか。

委員

きつねっばら公園こどもキャンプ場の隣にある樹林で先月火事があった。

火の始末については、利用者に徹底してもらおうところだが、どのような状況においても火事は起こしてはいけない。そこで提案なのだが、樹林をなくしてキャンプ場を拡張したら良

いと思う。

委員

きつねっばらのキャンプ場は文化スポーツ課の管理であり、緑化推進委員会で取り上げるべき問題ではない。

委員長

緑化推進委員会では、樹木の保全という視点から、樹木周辺の公共施設に関しても管理のあり方を議論することは悪いことではない。しかし、今回の話は利用者のマナーの問題であり、我々の立場で樹木をなくすというという提案をすることは難しい。

他になにかあるか。

委員

今回の「意見・提案集約」にもまとめていただいたが、宅地開発によって生まれた小さな公園の管理等が全国的に問題となっている。これらの公園をどのように整備していけば良いか次回以降議論したい。

また、ハンギングバスケットについて、花いっぱい運動の活動も行われているルネこだいらを中心に、公園の中などでも実現できないか。

農業公園の話も出ているが、歴史的な位置づけからすると、都市農業を支援することが緑を守ることに繋がるという話が以前にも出た。そこで、言葉として「農業公園」ではなく「都市農業公園」とすれば、小平の都心に近いという地勢も表せるのではないか。

委員長

農業公園と都市農業公園の概念の違いについて根拠を出していただきたい。

小平の場合は、近隣に農業を生業としている方々があり、その中で都市農業公園がどのように生きていくのか。社会とのかかわりを通して、都市農業公園というもののあり方を考えていけたらと思う。

以上